



HP <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/>

2月

学校だより/姫川原小

いちに いちに

今年は例年になく少雪だ。

「二月がこれくらいの雪で済んで、もうかったね。」

と、道すがら大人たちの会話が聞こえた。寒く冷えた雪原に出よう。さあ、スキー支度を、と言われると億劫になつてしまった自分は、背を丸くした猫のようだ。子どもたちは、着替えも早く、スキーに履き替え、早々にグラウンドに駆けだして行く。

二年生の背を追いながら、一年生がコースを歩きだした。よちよち歩きのペンギンレースのようだ。カラフルなウェアが白い雪に映える。一生懸命一歩一歩スキーを動かしている姿が、何とも言えず胸が熱くなる。前かがみに手を振り「いちに いちに」と声が聞こえてきそうだった。

今ではストックの使い方もうまく、よちよちどころかスリーストと走りきり、成長が著しい。モービルでつけたコースは長いレールのようだ。「コースがついていると、滑りが楽だよ」と、帰ってくる時の言葉も違ってきた。

時を同じく、六年生の卒業アルバムの校正がやってきた。六年生のあどけない時期の写真ページがあった。今日の低学年の姿とダブらせ、思わず一人一人の顔を追った。放課後、高学年のスキー練習が始まった。みんな実にかっこいい滑りだ。六年間のスキー技術の成長を、雪原に広がる子どもたちの姿から、追って見れた晴れた冬の日だった。

「いちに いちに」

確実な一歩一歩が、かけ声と共に積みかなさっていく。

かわり子どもたち

ようこそ きく組さん

二月七日移行学級が行われました。最後の姫川原保育園の卒園生でもあり、最後の姫小の入学生でもあります。「ようこそ姫小へ」六名の大切なお客様をみんなでお迎えしました。



2年生は、きく組さんのために魚釣り・ロケット屋・スロットアーチェリー・輪投げの遊び場を用意しました。1年生も一生懸命エスコート役を務めてくれました。



この日だけの姫川原銀行が誕生。ようやく100より大きい数を学習した子どもたちですが、お釣りの計算や、売り手としてのあいさつなど、笑顔でしっかり対応していました。1年生の描いた商品の面白さのためか、品定めに時間のかかるのは大人たちのようでした。



開店したお店は、お菓子屋・本屋・寿司屋・ケーキ屋・花屋・服屋・虫屋・レストラン・文房具屋でした。きっと自分で将来やってみたいお店だったのでしょ。今の生活感が生きている商品や、あると楽しくなりそうな商品まで、たくさんの種類を作っていました。



移行学級の準備は、二年生の「生活科」という学習の中で行われました。

生活科は、自立の基礎を養う教科です。野菜の栽培や動物飼育など年間通した体験や、今回のような形のものささまさです。どれも自分と身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもち、生活上必要な習慣や技能を身に付ける大切な学習です。

将来社会的自立を促すキャリア教育の面からも一番の根底となるものです。何よりも人とかかわりの中で、学びの質が大きく変わっていきます。

例えば、二年生は、この日のために事前に一年生を呼んでリハールをしました。改良点を見つけ、本番を迎えるためです。一年生も、紙に描いた品物を売るお店屋さんごっこを先日開店したばかりです。その際も、二年生やお家の人たちにお客さんとして来てもらいました。お互いに喜び合いながら、運営する側、招かれる側の両者の経験が生きていきました。

このような経験を積み上げながら、してもらって気持ちの良かったことは、次の後輩のために返す姿勢。ためになったことなどを伝えていく対応を大切に、子どもたちは育ってきました。

東京オリンピック誘致のプレゼン以来、学校現場にも「おもてなし」の心を実践する場面が増えたのは、気のせいでしょうか。



新メンバーによる姫小バンドの練習が始まりました。自分の楽器を後輩に譲り渡す新旧鼓笛引き継ぎ会では、校歌の演奏を目指しています。休み時間にもかかわらず、寄り添い指導する6年生です。来年用の新曲楽譜を渡されると、4・5年生は進んで取り組み始めました。朝から心地よいメロディが校舎中に響いています。



鬼を追い出せ！豆まき大会

1年～3年生が一同に集まり、豆まき大会をしました。学年毎に追い払いたい鬼を紹介していきます。学年関係なく「忘れんぼ鬼」が多かったようです。自分の行動を振り返りながら「心の鬼」を考えるので、お互い鬼の名前に納得し合っている様子でした。おいしい落花生やチョコ、キャンディを食べて終わりで無く、本当に追い払って下さいよ！



5年生の感想作文から

*合奏では、演奏だけでなく1年生のために楽器の名前を紹介しました。授業より上手にきました。アンコールを言ってもらい楽しかったです。1年生がすごく喜んでいたのでこっちまでうれしくなりました。

*最近1年生と遊んでなかったのが、授業より交流会の方が楽しかったです。これまでよりもっと仲良くなれたと思いました。新1年生にもしてあげたいと思いました。

風邪がもたらした交流

実は1月下旬から職員にインフルエンザの嵐が起きました。担任不在の中をどう乗り切るかが課題となりました。担任がいないことは、子ども自身の力、本当のクラスの力が試される時でもありました。しかし、ピンチがチャンスとなり、思わぬ交流が生まれていったのです。これまで全校で算数を学習する経験は積んできましたが、数日間も異学年と一緒に勉強したり、いつもと違う先生と勉強したりする経験は無かったのです。

勉強ばかり続いてはと、5年生が学級活動の一環として、交流会を考えてくれました。音楽の時間、練習してきた合奏を披露したり、サングラスをかけて逃走するゲームをしたりして盛り上がったそうです。

でも、子どもたちは担任を待っていたのですね。明日は来るという前日に、黒板にたくさんのメッセージが書かれていました。いろんな学年の人たちからの言葉です。勉強の言葉はどこにも見当たらず、「先生、早く元気になってね。一緒に遊ぼう。」という言葉が微笑ましく苦笑いでした。担任もこのメッセージに感激！

校内版画展開催中



各学年の廊下に、版画作品が展示されています。各学年力作揃いですが、6年生では、佐渡への修学旅行「鼓動」での太鼓体験の感動を表現している児童が多くありました。今にも腹の底に響いた音の振動が伝わってきそうな作品でした。